

旧館のDNAを継承しながら
増築が街並みを構成してきた好例

長瀬産業株式会社大阪本社ビル



1921年の第一次都市計画事業に基づいて拡幅された四つ橋筋にも、昭和初期に建てられた近代建築がいくつか残る。かつて流れていた西横堀川と立売堀川が合流する辺りに建てられた、長瀬産業株式会社大阪本社ビルもそのひとつ。1832年創業の歴史をもつ長瀬商店（当時）が、関東大震災を機に耐震耐火の建築を計画した。設計したのは初代通天閣で知られる建築家・設楽貞雄。長瀬産業は事業の拡大と共に、当初のデザインを引き継ぎながら改修と増築を重ねてきたが、特に1982年に建てた10階建の高層ビルは現代建築としても優れた作品となっており、一企業の沿革がひとつの街並みを形成していて素晴らしい。（高岡伸一）

所在地：大阪市西区新町 1-1-17

建設年：【旧館】1928年、【新館】1982年

構造・規模：【旧館】RC造4階地下1階【新館】SRC造、S造10階、地下2階

設計：【旧館】設楽建築工務所（設楽貞雄）、【新館】竹中工務店（永田祐三）